

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3492500149		
法人名	有限会社 トツツ		
事業所名	グループホームふあみりい豊栄		
所在地	広島県東広島市豊栄町鍛冶屋 908番地		
自己評価作成日	令和3年1月20日	評価結果市町村受理日	令和3年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	広島県福山市平成台 31-34
訪問調査日	令和3年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員一人一人がプロとして入居者様に関わり、支援している。コロナ感染症が流行する中、制限ある中でどうやって利用者や家族を満足して頂ける支援が何が出来るか常に考えながら支援している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の「人と人との心の絆を大切に、温かく優しく、そして夢の持てる地域・社会づくりに貢献いたします。」を基に、利用者が笑顔で快適に過ごせるよう施設目標を設定し日々の実践に取り組んでいる。利用者が希望に沿ってやりたい事が十分にできる環境作りに努め、利用者の有する能力を活かす工夫をしている。カラオケ・生け花・日本舞踊・移動スーパーでの買い物など様々な取り組みで居心地の良い生活を支援している。利用者は役割を果たす事で生き生きとした表情を見ている。運営推進会議では活発な意見交換から地域住民の協力を得て事業所の畑の整備が行われ、利用者は花や野菜を植え、日々の生活の喜びへとつながっている。法人はオンラインによる研修や会議を実施し職員の育成に努め、管理者は気が付があればその都度話し合いの場を設け職員の意見を反映させている。職員間のコミュニケーションが良く笑顔の多い職場環境である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関わりについては積極的にしたいが、現在コロナウイルス感染症流行の為制限されており、なかなか思う様に実践できていない	理念を玄関に掲げ、毎朝の朝礼時に唱和し共有している。事業所の施設目標を設定し実践につなげている。管理者は申し送り時に、事例を取り上げて職員に声かけし、毎月の職員会議で日々の実践について振り返りをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりは制限されている	屋外で地域住民と挨拶を交わしたり会話をする利用者もいる。運営推進会議を通じて近隣住民と交流があり、近隣住民が事業所の畑を整地し、玉ねぎや花の球根植えるなど、利用者の喜びへと繋がった。地域住民の相談事を包括や社協へ取り継ぎ、支援へとつながった事例もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との関わりは制限されている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も今年度になって10月にやっと集まって実施ができた。それまでは書面会議として実施し直接交流はできなかった。10月に出た意見は徐々に準備を進めている	10月に包括支援センター・地域住民・民生委員・社協・駐在所などの参加を得て開催し、意見交換が活発に行われた。事業所の畑活用への意見から地域住民による畑整備への協力が得られた。その他は2ヶ月毎の書面会議とし電話で意見を聞き議事録に残し共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターには毎月足を運び現状報告している。また豊栄地区の近隣事業所などが集まり現状報告し情報共有している	毎月事業所の‘ふぁみりい豊栄通信’を包括に届け、話をしたり電話での相談事などで協力関係を築いている。また、包括主催の豊栄地区会議への参加で他事業所と交流したり、市の研修にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束・虐待・不適切ケアについて、実際どうであったか各一人一人個別にチェックリストにチェックし、分析を行い現状把握に努めている。今のところ身体拘束・虐待は認められない	毎月の身体拘束等適正化対策検討委員会を開催している。不適切ケア・虐待の芽チェックリストを活用し日々のケア振り返り、評価検討し実践につなげている。帰宅願望のある人には会話や楽しみ事への気分転換などで対応し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内や法人研修を行い虐待防止徹底に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同上		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に必ず説明をし納得を得ている。また説明不足にならないように契約時には、管理者及び、現場職員が必ず同席し説明・理解していただいている。疑問点についても時間をかけて丁寧に説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に運営に関しては意見を聞き改善できる体制をとっている。契約時に十分な説明を行っている	利用者からは日常生活の中で、家族からは介護計画更新時や電話などで意見を聴いている。出された意見や要望は申し送りや支援記録で共有し、食事や畑の活用などに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を実施し職員からの意見を聞き改善等している。必要に応じて本部にも相談、意見を求めている	毎朝の申し送り時や毎月の会議で職員の意見や提案を聴いている。人員配置の変更でゆとりのある入浴時間の確保ができ、事故防止へとつながっている。誕生日会などの行事は各担当職員が計画立案し職員全員で協力し実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者として意見は聞くが、職員の意見に比例して満足いく結果が得られているかどうかは十分とはいえない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修に参加を呼び掛けるが、研修の開始時間、場所(距離が遠い 夜間実施が多い)等から参加が出来ない事が多い。ただし、研修に参加したものはその資料等を職員に回覧、説明し内容を共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊栄地区周辺の主要な介護施設などの代表者が月に一度集まり意見交換等をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にまず本人に面会し、情報を集めアセスメントを行い安心して入所できる環境作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時しっかり家族と話ができる時間を設け、出来るだけ要望に沿えるケアが出来るようにしている。またサービス内容についても常に考え必要に応じ改善、変更しサービス提供している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをしっかり行い、本人の必要とするサービスは何なのかを分析し幅広い視野でサービス提供に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と家族的な関係になる努力をし信頼を得る努力をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	同上		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症流行により、馴染みの人との面会は制限され、馴染みの場所に行くことも難しくなかなかなと思うような支援ができていない	利用者のアセスメントからこれまでの馴染みの関係の把握に努めている。コロナ感染症の状況を考慮しながら面会を検討している。家族と電話で話をする人、窓越しに顔を見て話をする人、家族がペットの犬を連れて来られ抱っこする人などがいる。事業所では電話やメールで利用者の様子を伝えたり、コメント(利用者自身が書くこともある)に写真を添え郵送し関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの思いをや移設にしながら孤立しないように入居者が関わり合えるような関係作りをしているが、認知症が進む事で意思疎通が難しかったり、意欲低下があったり難しい面もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスは終了しても必要であれば相談に乗ったりできる関係は築けている。しかし現在のところ退所されてから家族からの相談は無い。特養等に移られてから担当ケアマネ等から相談を受けた事はあるが適格かつ迅速に対応させていただいている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人希望は聞き希望に沿えるようなケア実施の努力はしている。認知症進行により意思疎通が難しくなられた方や、以前のようない欲が無くなり活動等難しくなれるとどうしたら良いかは職員家族間で検討している	居室で個人的に話をする時間を設け思いや意向を聴いている。家族の話も電話で聴き、支援経過や業務日誌に記録し職員間で共有し、介護計画に反映させている。把握が困難な場合は職員家族で検討し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報等をしっかりと読み込み職員間で情報共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人、アセスメントをし、また計画が実際に実践出来ているか毎月職員会議でモニタリングをし確認している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人に関係する家族・職員・入居前施設の職員などと情報共有しながら本人の意向も聞いた上で介護計画書を作成している	利用者と家族の意向を聴き、アセスメント後、医師などの意見を取り入れ計画立案し、担当者会議を経て介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、短期目標の達成度を確認しながら3ヶ月毎に見直しをしている。状態が変化した場合は柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護記録は記入し、更に変化のあった事については個別の支援経過に記録し職員間で情報共有しながら必要に応じて計画書の見直し・修正をかけて実施している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態をみながら柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ感染症流行により、外部の社会資源活用は十分にはできていないが将来感染症が落ち着けば外部の人との関わりや、資源活用も出てくるであろうと期待している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、今迄かかっておられた病院を継続して使っていただいている。しかし、ご本人が急な発熱や状態変化が度々あるようなら、近くの病院でかかりつけ医として登録されたらどうかという提案はさせていただいている。	契約時に本人や家族に意向を聴き説明している。希望に応じて入所前のかかりつけ医を継続できる。近医の往診が月1～2回あり、他科受診は家族や職員で同行している。体調変化時は訪問看護師や管理者に連絡し適切な医療を受けられるよう支援している。歯科は必要に応じて往診対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々看護職の人には状態を伝え、週2回の訪問看護の人にも伝える様にしている。週の定期訪問時以外にも変化があれば電話で報告したりする場合もある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院され、改善されて退院される場合は病院から情報提供を書類で出していただき、現在の治療、服薬情報、必要なりハビリ等聞いて退院後も継続して実施している。病院関係者とも情報共有し関係作りを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りまではできないが情報共有は本人・家族としている	入所時に事業所で出来る事・出来ない事を説明している。状況に変化があれば医師から家族に説明し、今後の方針を話し合っている。利用者の状況や要望に添った他施設の情報提供や紹介を事業所からすることもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変などのあった時の緊急連絡網は職員も理解しており、また心肺蘇生の訓練も消防署に依頼して初期対応の仕方の研修を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震等に備えて訓練をし入居者も含めて避難訓練等おこなっている。災害など起こった時の食糧の備蓄などは準備していない	年2回9月と3月に利用者も参加して夜間想定消防訓練を行った。3月は消防署立ち合いで器具の取扱い方や救命救急講習を実施した。備蓄は水のタンクが数個あり、その他は検討中である。	災害の発生に備え、運営推進会議や避難訓練時などに備蓄や避難方法、地域の協力関係の再確認を行い、利用者や職員の安心・安全につなげることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者様全て、人格を尊重し対応している。毎月会議を開き不適切ケアや身体拘束・虐待などが無いか確認している。不適切ケアがあった場合は理由を考え協議、改善している	接遇やプライバシーの保護など研修を実施している。介助やレクリエーション実施時など利用者に対する言葉遣いは丁寧に行い、排泄確認は羞恥心に配慮した対応を心掛けている。一人一人の人格を尊重し、利用者の希望に添った支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り自己決定していただくようにしているが認知症の進行により、それが不可能な方もおられる。その方の場合には職員が対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合は優先せず一人一人のペースに合わせて希望に沿って支援している。認知症により日々の時間の食事やおやつ、睡眠時間などが管理できなくなった方や、意欲の無い人については職員が誘導し起動修正する場合もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	あまりおしゃれと言える事はしていないが、服も自分で選んで着て頂き好みに沿った身だしなみがして頂けるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は個人の好みのものを提供するという事は出来ないが、食事は美味しいと喜ばれている。出来る人には盛り付けや片付け、調理等やっていたいっている	業者のケータリングを利用しながら事業所では味噌汁と和え物は手作りし提供している。誕生日にはケーキ、節分には巻きずしを手作りし行事食を楽しんでいる。利用者は食材を切ったり盛り付けたり、食後の洗い物など積極的に出来る事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、栄養バランス、水分量は管理して必要量摂取できるようにしている。食材に関してはあらかじめ栄養・摂取カロリーが計算されたものが届くのでそれを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きは実施し、毎日消毒剤（ポリデント等）に浸して消毒している。口腔内の状態は確認するようにしている。必要に応じて、訪問歯科診療をして頂き口腔内のチェックをしていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	どうしても機能の低下した人は、失敗もあるが適度に声掛けをして出来る限りトイレで排泄を行えるよう支援している	排泄チェック表をもとに本人のペースに合わせた声かけで誘導し、日中は全員トイレで排泄をしている。夜間もほとんどの人がトイレを利用している。体操や歩行の機会の確保に努め、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の人については水分をしっかり摂取していただいたり、軽度の運動、歩行等をするよう促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は好きな時間に入って頂くということは残念ながら出来ていない。しかし、入浴そのものは気が乗らない時は日を変えたりし、希望に沿えるようにしている	本人の希望に沿うなど、平均2日に1回の入浴で、職員との会話を楽しんでいる。入浴を嫌がる人には声掛けの工夫や好みの香りの入浴剤の使用で対応している。職員は、入浴後には保温に留意したり危険防止にも努め支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人寝る時間は違いそれぞれにお任せしている。夜間眠れない人はそこまでいなくて安心してよく眠れている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理については薬情報を個々のファイルにも閉じて、グループホーム内のすぐ見れる場所にもファイリングいつでも目を通して確認出来るようにしている。処方されたらまず情報を読み確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人何が好きで何がしたいかアセスメントし希望に沿う努力はしている。ただ気分転換は外出も現在出来ないし、外部からも入れない為十分には出来ない。11月より移動販売車に在所を頼み、欲しい物を購入していただいたりする予定		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナウイルス感染症流行の為、病院受診以外の外出は認めていない	敷地内の散歩で花や木々を見て外気に触れリフレッシュしている。畑では利用者が嬉しそうに頑張り、玉ねぎの苗と花の球根を植える姿が見られた。週に1回、事業所へ移動スーパーが来て利用者はお菓子やパン、飲み物など好きな物を購入して買い物を楽しんでいる。受診時には職員が同行し、外出の機会としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在のところ、各個人がお金を持つ事はない。認知症があるので物が無くなったとかお金に関するトラブルを避けるため会社で立替払いし、個人が管理することは無い		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な時には電話をかけたりもしていただいている。携帯電話をお持ちの方は御自分で電話をされたりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は気持ちよく利用出来るようにしている。トイレなどは特に落ち着ける場所であるように過剰な飾り付けなどはせずにシンプルにしている	明るいリビングには季節を感じる手作りの装飾が施されている。利用者はリビングに集い、気の合う利用者や職員と会話をしたり、お茶やお菓子を食べてくつろいで過ごしている。カラオケや日本舞踊を楽しむ人もいる。洗濯物や加湿器を利用して湿度の維持に努め居心地よく過ごせる環境に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内は自由に動き回って好きな場所で話したり活動してもらったりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものを持ち込むことは自由で安心してすごせる空間づくりに努めている	居室には家具や棚が備え付けられ、テレビや馴染みの品々やお気に入りの服などを持ち込まれ、居心地よく過ごせるように工夫している。夫や孫の写真、本人の塗り絵の作品を飾っている人もいる。利用者は1人で休みたいと思えば居室で休んだり昼寝をして過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個人が出来る事、わかる事を出来る限り出来るようにしている		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームふあみりい豊栄

目標達成計画

作成日: 2021 年 5 月 4 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	災害の発生に備えた備蓄や避難方法、地域の協力関係ができていない	災害時、あわてず避難ができ、入居者、職員の安全を守る	避難訓練等に地域の人に声をかけ、参加をしていただく。 入居者分の備蓄を持っておくことを検討する	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

特定非営利活動法人 あしすと

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		
実施段階		取 り 組 ん だ 内 容 (↓該当するものすべてに○印)
1	サービス評価の事前準備	☐ ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		☐ ②利用者へサービス評価について説明した
		☐ ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		☐ ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		☐ ⑤その他()
2	自己評価の実施	☐ ①自己評価を職員全員が実施した
		☐ ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		☐ ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		☐ ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		☐ ⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	☐ ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		☐ ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		☐ ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		☐ ④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	☐ ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		☐ ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐ ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		☐ ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐ ⑤その他()
5	サービス評価の活用	☐ ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		☐ ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		☐ ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		☐ ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		☐ ⑤その他()